



暮らしの安心を取り戻す

政治刷新。

暮らしの支援が届かず、 北国の事情も無視の国民利益なき解散

「物価高対策が最優先」と言いながら、強行される解散総選挙。国の当初予算の年度内成立を放棄し、4月に地方に届くはずの生活支援のお金も届きません。国民生活を置き去りにしてまで、そして県や市町村が予算編成で最も多忙な時期に選挙事務を強要し、真冬の寒さや大雪で投票に困難や危険が生じるなか解散する利益、大義はありません。従来の政府見解と異なる、高市総理の発言が招いた日中関係悪化とレアアースなどの対日輸出規制、「責任ある」とは言えない放漫財政で止まらない円安と物価高の加速、総理が代表を務める政党支部の企業献金問題、21年衆院選で290人の自民党議員が旧統一教会の支援を受けていた問題、与党の地方議員の「国保逃れ」の問題も明らかになり、国会論戦を乗り切れないと判断した、理不尽な解散です。

緑川 貴士プロフィール／昭和60年生まれ。早稲田大学社会科学部卒業後、秋田朝日放送入社。アナウンサーとして県内の出来事や暮らしを取材。退社後、政治の道へ。農林水産委員会・財務金融委員会理事を歴任。気象予報士、防災士、英検準1級の資格を持ち、趣味はマラソン、気象予報、津軽三味線。

少数与党だからこそ 実現した政治改革、法案成立

自民党の裏金問題に民意の厳しい審判が下され、衆参で少数与党となって生まれた「熟議の国会」。野党の提案が政策に反映され、わずか1年余りで、政党が議員個人に支給する「政策活動費」の廃止など一連の政治改革や、半世紀続いたガソリン暫定税率の廃止、能登半島の被災地関連予算の増額の実現など、数々の予算修正や法案を実現できました。再び自民党一強による政権運営となれば、こうした改革は不可能になります。

建設的な国会議論で、 生活に根差した政治を貫きます

暮らしや産業の現場を回る中でお寄せいただいたお声を軸に、国会議員として100回を超える質疑・討論に立たせていただきました。秋田、地方の視点から法律、制度課題を指摘しながら、国の施策の改善につなげてまいりました。お支えいただいていることへの感謝の思いとともに、国民生活の安定のために、多様な民意がバランスよく反映された、現実的で安定感のある政策の実現に全力を挙げてまいります。

緑川たかし

暮らしと中小企業重視の 「底上げ型経済成長」に政治刷新

高市政権の経済政策は「金融緩和なきアベノミクス」であり、円安によるインフレと株高で大企業は利益を上げて、生活者や中小企業にその恩恵は届きません。金利上昇による財政の圧迫で政策の自由度が失われ、弱い立場の方々へのしわ寄せとなるでしょう。求められるのは、国民の分断や対立をあおる政策ではなく、各層にとって安心できる、中道理念に基づいた現実的な政策です。エネルギーや食品の価格高騰を抑え込む即効性のある対策、医療や介護・福祉の充実を通じて国民の命と暮らしを守ること。物価上昇に負けない賃上げを後押しするため、中小企業への直接支援を強化し、誰もが豊かさを実感できる経済循環を取り戻します。

政局より、政策を。国民の暮らしを第一に。

1. 原材料やエネルギー、食料品など、かつてない物価高にさらされている地域の「暮らし」を強力に応援します。
2. クマ被害対策の強化・拡充をはじめ、経営困難な医療機関などを支援し、国民の「命」を守ります。
3. 賃上げ・雇用を中心とした経済政策を展開、中小企業支援や成長投資を進め、「賃上げ」を加速していきます。

質問数・時間などで評価される三ツ星議員に選ばれ、質問時間では衆議院全体の2位(2019年通常国会)となりました。



緑川たかし